



令和七年度

学校法人 関西金光学園

金光藤蔭高等学校

第七十八回卒業記念号

# 旅立ちの季節

令和八年三月五日



# ご卒業 おめでとうございます

## 「告辞」難しく 複雑なもの」

理事長 湯川 彌壽善



本学に学び、卒業を迎えられた皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。おめでとございます。本学とご縁があつて繋がつた皆さん一人ひとりと、卒業の慶びを分かち合いたいと思

昨年、ある新聞のコラムに、クリスマス前のサンタクロースをめぐる出来事が取り上げられていました。いささか時季外れの話題になりますが、しばらくその内容を紹介します。『カナダ・オンタリオ州ブラントフォードで恒例のサンタクロースパレードが開かれ、市民ら約3万人が詰めかけた。沿道の住宅の窓に張り紙があつた。「サンタはインチキだ」「サンタは実在しない」「君の親がサンタだ」「家族がプレゼントを買っている。これを見た市民が警察に取り締まりを求めた。地元テレビによると、警察はこの住民と話し合い、張り紙を撤去される一方、言論の自由は認められるべきであり、個人の所有する場での張り紙は違法ではないと説明した。』このように紹介されてい

りかねません。そこで「子どもの夢を壊すな」と、警察に訴えます。そこには「子どもの夢を守れ」という正当な理由が存在します。これもまた、一つの正義といえるでしょう。日本ならどうなるか。「サンタがうそかどうかなんて、そんなことに目くじらを立てなくて」と理性的な態度を求めるといいます。あるいは「いたいけな子どもを夢を壊すような奴は許せない」と、よりエスカロートするでしょうか。ところが、サンタを否定する側と擁護する側の二者の間に、さらに介入してくるのが「言論の自由は尊重されなければならない」という態度です。これは言論の自由が保障される国々の話だという前提ですが、要するにサンタの存在を声高に否定することも、言論の自由という観点では許されるし、主張して構わないという共通の価値観が、また一方で存在することになります。カナダの出来事では、警察も対応に頭を悩ませたそうです。さて、コラムで紹介された出来事を辿っていくと、以上のような複雑で難しい構図が浮かび上がるようです。私たちは、こうした複雑で難しい社会、世界に住んでいると言います。これは、まさにそのような場所です。自分の一面的な認識や意見がぶつかるだけでは、バランスがとれないことも多々あるでしょう。やはり、自分の中にしっかりと「立ち位置」を持つていなければ、これからの時代心許（こころもと）のないものでないでしょうか。

二〇二六年、三月五日は（旧暦で）、二天赦日（てんしやび）。「一粒万倍日（いちりゅうまんばいじ）」が重なる最強開運日です。天赦日は、「天が万物の罪を赦す日」とされる最上の吉日（大開運日）、一粒万倍日とは、「一粒の意味を持つ大吉日で、何かを始めるのに最適とされる日です。このよき日に卒業を迎えられたことを、心から祝福したい未来に向けて、決意新たに一步を踏み出して、くれることを願ってやみません。さて、今年度もたくさんの出来事がありました。明るいニュースとしては、相変わらず連日ドジャース大谷翔平選手の話題、さらに歴史に残る激闘を繰り広げたブレイクオフでは、山本由伸投手が常識を覆す獅子奮迅の働きを見せ、見事MVPに輝きました。その姿は多くの人の感動を与え、日本人として誇らしき思いのでした。彼らが一貫した姿勢と日々の努力は、何事にも通じるお手本となるのではないのでしょうか。他にも、サッカー、ラグビーのワールドカップへの出場決定や、十八年振りに東京で開催された世界陸上では、男子棒高跳びがスウェーデンのデュブランティス選手のとてつもない世界記録を見るのができました。関西の嬉しいニュースとしては、まず真っ先に思い浮かぶのが今年度、地元大阪夢洲の地で、「大阪・関西万博」が五十五年振りに開催されたことでしょうか。期間中、世界中の国々から予想を超える約二五〇〇万人が来場し、近代的で魅力満載な一八〇を超えるパビリオン（一五八カ国・九つの国際機関）はいずれも長蛇の列でした。

## 「式辞」

校長 武田 充広



AIを駆使した映像技術や、アンドロイド、人工心臓などの未来型テクノロジーは近い将来、我々の生活を大きく変えるかも知れません。当初賛否のあったミヤクミヤクの爆発的な人気も相まって、大盛況のうちに幕を閉じました。そのレガシー（遺産）は受け継がれていくことでしょうか。また、大阪大学の坂口志文特別教授がノーベル生理学賞・医学賞、京都大学の北川進特任教授が同化学賞を受賞されたことも記憶に新しい出来事でした。万博で披露されたテクノロジーと、このような研究の成果が新しい科学や医学の分野を今後さらに発展させていくことでしょうか。反面、暗いニュースも少なくありません。国内では、令和の米騒動と名付けられたお米の異常な値上がりが始まり、数々の物価高騰は人々の生活に大きな影響を及ぼしています。また、我々の生活圏では身近に感じられませんが、北海道から東北、北信越、関東、中部地方などでは、社会問題となりました。自然との共生が脅威にもなり、これまでの生活様式を変えてしまいかも知れません。また、自然の驚異といえれば、国内外で大規模な火災や地震が起こるたびに、阪神淡路大震災や東日本大震災の記憶とともに、南海トラフ地震への懸念と備えの必要性を感じずにはいられません。また、戦後八十年が経ち、改めて戦争が招く深い悲しみや惨状を見聞きした年でもありました。現在も、衝突や紛争、戦争が長期化している国々もあります。日本を取り巻く環境も例外ではありません。ここで学んだ、生かされていることへの感謝、世にお役に立つという念願のもと、文化の発展と平和達成の一翼を担う社会人となることを期待しています。

初の女性首相がスリランカで誕生して以来、六十五年が経過しています。彼女の就任後に放つた「働いて働いて働いて働いて働いて働いて」が年間流行語大賞に選ばれ、注目度の高さから賛否両論を呼ぶことになりましたが、その「働く」というごく単純で当たり前の響きが、以前に残った言葉を思い起こさせました。その言葉とは、「働かばはたらく」とは、傍楽（たが）に「働かばはたらく」ということです。人のために、家族のために、傍にいる人が楽しく、幸せに過ごせるように一生懸命働くという意味でしょうか。皆さんも自分の大切な人を守り幸せにするために、「働く（傍楽）」ことの大切さ、その意義を考えてみてください。これから人生いろいろなこと直面するでしょう。人は自分の力だけで生きていくこと、何かを掴むこととはできません。そのことを念頭に、次のことを忘れないでください。

- 一、自分（あなた）を支え、見守ってくれた人
- 一、自分（あなた）を認め、引き上げてくれた人
- 一、自分（あなた）を思い、時には叱咤した人

激励してくれた人

恩義ある人を絶対に裏切つてはいけません。敬意と感謝と礼節をもって、恩に報いる努力を振る舞いを実践してください。それができない人間は、成功しません、周囲からも認められません、幸せにはなれないでしょう。どうか、人との繋がりを大切にし、人から愛される大人になつてください。そんな願いを込めて、結びにこの言葉を送ります。

“人の道を守らない人間、親を大切にする人間、恩ある人に砂をかける人間に、運はない”（樋口武夫氏：致知出版より引用）

卒業おめでとうございま

# 卒業生の言葉



## エンカレッジコース

### 『周りの支えに感謝して』

一組 小谷 直也  
 (東大阪市立布施中学校出身)  
 近畿大学農学部進学



私が高校3年間で学んだことは、家族と友人の大切さです。私は、2年生の3学期までは勉強を頑張るのも面倒臭いし簡単に入れる大学で良いかと思っていました。しかし、2年生の冬休みに、母親に近畿大学の文化祭へ連れて行ってもらった時に、とても雰囲気も良く楽しそうだと感じ、進路を迷いました。そこで更に母親は、失敗してもいいし受験勉強を頑張ったその過程は無駄にはならないと私の背中を押してくれました。そこから私は近畿大学を第一志望とし勉強に気合いを入れ始めました。そこから周りの友人が様々な形で応援してくれたり、私が疲れた時にはお腹が痛くなるくらい笑わせてくれたりして、それが大きな励みになりました。

## 『不登校から頂点へ』

一組 和田 仁星  
 (大阪市立田島中学校出身)  
 大阪学院大学経営学部進学



私は、小学校1年生から中学3年生までの9年間、学校に行っていないでいました。しかし、高校でやり直したいと思い、一生懸命勉強して学年1位の成績を維持したり、様々な検定試験を取得したりしました。他にも私が高校で頑張ったことは、人間関係の構築です。中学校では友達や先輩ができなかったのですが、コースを問わず関わってくれた友達は大切にしたいと思います。そして、今まで先輩が居なかった自分にとって、「和田先輩」と呼んでくれる先輩ができたのがとても嬉しかったです。改めて、金光藤蔭高校に入学した決断は間違いいではなかったのだなと感じました。これからも、もつと自分の力を世の中のために発揮したいと思えます。

ありがとうございます！  
 ありがとうございます！

## 『私から吹く風』

二組 田中 笙真  
 (大阪市立天満中学校出身)  
 京都外国語大学外国語学部進学



私は幼い頃から病弱で、中学2年生の冬から約7か月間入院生活を送りました。完治した頃には3年生の秋で、学校生活をどう再開すればいいかわからず時間だけが過ぎ、不安を抱えたまま高校へ入学しました。心機一転、人前にお立つのが苦手な自分と向き合おうと生徒会役員に立候補して活躍した経験は、私を確実に成長へ導いてくれたと思います。また、海外で活躍する従姉妹の影響を受けて英語に興味を持ち、英検準2級を取得しました。今の私はグローバル社会で活躍するという明確な目標があり、将来は海外も視野に入れて留学や資格取得に挑戦していきたいと思っています。今後自分の可能性を広げながら、何事にも全力で挑戦していきたい気持ちでいっぱいです。

## 『私の道』

二組 三浦 介翔  
 (大阪市立高南中学校出身)  
 桃山学院大学人間教育学部進学



私は高校生活を通して様々な成長ができたと感じています。中学時代、学校になかなか行くことができなかった私が、高校に入学してから休むことなく皆勤賞で卒業することができました。また、生徒会に3年間所属し、3年生では生徒会長を務めさせていただきました。3年間の生徒会活動の中で、「忍耐」と「信頼」の大切さを学びました。生徒会活動の中で

起こる様々なしんどい事も耐え忍び、自分を奮い立たせる努力をしてきました。そして、誰かがその努力を見てくれていてと知りました。そうして「信頼」というものが生まれ、沢山の仲間ができました。この3年間で得たものを大切に、困難に直面しても諦めず、自分らしく前に進んでいきたいと考えています。

## ITライセンスコース

### 『3年間の思い出』

三組 土森 湊太  
 (大阪市立東陽中学校出身)  
 フロンタル株式会社就職



私は、金光藤蔭で様々な思い出ができました。その中でも特に印象に残っていることは修学旅行です。修学旅行では、普段見られない友人の姿を見たり、なかなか行く機会のない北海道でスキートの体験をしたり、とても新鮮でした。他にも、氷でコップを作ったことなど楽しい思い出ばかりです。金光藤蔭での思い出は忘れません。いつも一緒に過ごしてくれた友人や、いつも見守ってくれた先生方、本当にありがとうございました。

私は、金光藤蔭を卒業してフロンタル株式会社に就職しました。就職先でも感謝の気持ちを忘れずに頑張ります。

## 『仲間と作りあげる楽しさ』

三組 晴山 夢叶  
 (羽曳野市立高鷺南中学校出身)  
 京都外国語大学外国語学部進学



私が高校3年間で学んだことは、「仲間と協力して一つの物を作りあげることの楽しさ」です。

私は、軽音楽部でバンドを組む、文化祭やオーブンスクールなどで演奏をしました。その際、仲間と一緒に練習したり、話し合いを重ねたりして、一つの曲を完成させることがとても楽しく感じました。この経験を高校生でできて非常に良かったと感じています。

この高校生活での経験を、大学生生活や社会に出た際に必ずいかしたいと考えています。3年間は非常に有意義な時間でした。ありがとうございます。

## アートアニメーションコース

### 『真面目であり続けること』

四組 中村 天音  
 (東大阪市立くすは縄手南中学校出身)  
 京都精華大学芸術学部進学



私は高校生活の中で、勉強や学校行事などたくさんの方に努力してきました。その中でも努力して一番良かったことは、どんなときでも真面目であり続けることです。



# トップアスリートコース

## 「恩返し」

八組 塚本 愛偉  
 (大阪市立緑中学校出身)  
 中国学園大学 ことも学部進学



私はソフトボール部での活動を通じて、ピッチャーとして全国の舞台に立たせていただき、気持ちの強さがより一層大事だということ学びました。そして、ピッチャーというポジションは周囲から注目を浴び、チームから守ってあげたいと思われないといけません。そのため、日頃の生活や練習では妥協することなく、常に全力で取り組みました。高校生活で学んだことを進学後も継続し、技術や心の部分でさらに成長できるように頑張っていました。ソフトボールに打ち込む環境を与えてくれた家族、技術のみならず、人として大事なことを指導していただいた先生方へ今よりも成長した姿をみせ、恩返しをします。

## 「バスケットボールととも」

八組 船本 奏  
 (大阪市立此花中学校出身)  
 園田学園大学 人間健康学部進学



私は高校3年間、バスケットボールに毎日向き合ってきました。気づけば体育館が私の第一

二の居場所でした。入学当初は、体力やフィジカル、知識や技術などの差を肌で感じ、たくさんの壁にぶつかりました。振り返ると楽しいことよりも、しんどいことの方が多い3年間でした。

高校2年生の秋からチームのキャプテンになり、キャプテンらしくない自分に悩みながらも、頼ってくれる仲間や支えてくれた先生、家族など色々な方のおかげで最後までやり遂げることができました。また、思うような結果が出ず、人数も多くなかなか意見がまとまらない学年でしたが話し合い、ぶつかり合いながら前に進んでいくことができました。目標としていた全国大会までは届きませんでした。インターハイ予選では、いつも負けていた相手に勝ち、ベスト8に入ったときには、チームの一体感と成長を感じることができ、とてもうれしかったです。

私はこの仲間と金光藤蔭高校でバスケットボールができてとても楽しかったです。大学では、高校で学んだことを活かし、自分と向き合い、もつともつと成長していきたいと思えます。

## 「部活動の経験」

九組 上村 祐紀  
 (和泉市立和泉中学校出身)  
 自衛隊就職



私は高校に入学した頃、将来何をしたいか決まっていま

に所属し、部活動を通じてたくさんを経験し、学びました。2年生の時に足を骨折し、2か月の離脱の期間、チームのサポートに徹していました。チームのサポートをしているうちに、自分には人を支える力があることを実感しました。そして、3年生の時に学校の先生から自衛隊を薦められ、後方支援という役割があることを知り、部活動での経験を将来に活かすことができると考えました。今まで支えてくださった方々に、恩返しができるよう、4月からは自衛隊の一員として、たくさんの人を支えます。

## 「高校生活で得た考え方」

十組 島田 夏輝  
 (大阪市立住之江中学校出身)  
 阪南大学経済学部進学



高校生活の中で、自分の考えを持って動けるようになったことが一番の変化でした。学級委員としてクラスの意見を聞き、その意見を形にしてい

# 第3学年教員の言葉

## 「思いやりをもって、それぞれの道へ」

第三学年部長・二組副担任  
 澤 登秋



三年前、皆さんが真新しい制服に身を包み、入学式に訪れた頃が懐かしく感じられます。もう、あれから三年の月日が経ちました。高校生活を通して皆さんは様々なことを体験し、多くのことを学びました。これからは、一人一人がそれぞれの進路先で自分の目標を見つけ、努力してほしいと思います。進学する人、就職する人、皆さんが生きてゆかなければならない。これからの社会は、必ずしも明るいものではありません。しかし、一人一人が自分のために、また自分以外のもののために思いやりをもって日々精進すること、必ず良い社会になることと思えます。

社会の一員として共に力を合わせ、良い世の中をつくらせていきたいと思います。

宮澤賢治さんの詩を引用し、贈る言葉とさせていただきます。

## 「雨ニモマケズ」

雨ニモマケズ 風ニモマケズ  
 雪にも夏の暑さにも負けぬ丈夫な体を持ち  
 欲はなく決して怒らず  
 いつも静かに笑っている  
 一日に玄米四合と味噌と少しの野菜を食べ  
 あらゆることを  
 自分を勘定に入れずに  
 良く見聞きしわがかり  
 そして忘れず

野原の松の林の陰の小さな萱ぶきの小屋にいて  
 東に病気の子供あれば  
 行って看病してやり  
 西に疲れた母あれば  
 行ってその稲の束を負い  
 南に死にそうなる人あれば  
 行って怖がらなくていいと言

北にケンカや訴訟があれば  
 つまらないからやめろと言  
 日照りの時はなみだを流し  
 寒さの夏はおろおろ歩き  
 みんなにデクノボーと呼ばれ  
 ほめられもせず 苦にもされず  
 そういうものにわたしはなり  
 たい

皆さん、卒業おめでとうござ  
 います。  
 保護者の皆様、様々な面でご  
 協力を頂き、ありがとうございます。

## 「別々の道」

一組担任  
 廣富 健口ベルト



3年生の皆さん、卒業おめでとうござ  
 います。

私は、アトアニメーション  
 コース1年生の担任から始  
 まり、君たちが3年生になっ  
 てからエンカレッジコースの担  
 任になりました。気が付けば、も  
 う卒業です。本当にあつとい  
 う間の3年間でした。そんな中  
 で、本当に色々な思い出が  
 できました。体育大会に、藤  
 蔭祭、その他にもたくさん  
 の行事があ

りました。これらの行事を通して、君たちとの距離が縮まったように感じます。

さて、これから先は、社会へ出て働く者、上級学校へ進学する者、それぞれ別々の道へと進んでいくこととなります。辛いときや苦しいときもあるでしょうが、自分自身で選択した道です。弱音を吐かず、しっかりと歩んでください。

共に過ごした濃い時間、楽しい思い出ができたとともに、私自身も成長できたと思っています。ありがとうございます。

### 【思い出を語れる人生に】

二組担任  
田中 媛菜



三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。三年前の四月五日、入学式を迎えたあの日が懐かしいですね。この三年間で、どれだけの思い出を作れたでしょうか。

高校で過ごす三年間は、大人になってもふと思いつくくらいに濃いものだと思っています。藤蔭祭や体育大会、修学旅行はもちろん、日々教室で授業を受けたこと、クラスメイトと過ごした休み時間や部活動など、振り返るとたくさん思い出が浮かびます。中には「めんどくさいなあ」「行きたくないなあ」と思ったこともあ

ったと思いますが、終わってみると「意外と良かった」と思えることもあったのではないのでしょうか。

最近出会った言葉の中に、「ない思い出を語る大人になるな」というものがあります。今後も多くのライフイベントがある中で、嫌だと思ってしまう大人になるでしょう。ですが、たくさんあるでしょう。でも、「行かなかった」「やらなかった」を積み上げた先には「ない思い出」を語ることはできなくなります。「嫌だったけど、やってよかった」が人生には多くあり、いい経験にできるかはいつでも自分自身にかかっています。

みなさんの今後の人生が、語りきれないくらいたくさん思い出で満たされたものになりますように。

### 【卒業にあたって】

三組担任  
宇藤 洋平



保護者の皆様、お子様のご卒業までにおめでとうございます。今思えば、あつという間の3年間でしたが、保護者の皆様のご協力のおかげでこの日を無事に迎えることができたと思っております。深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さん卒業おめでとうございます。高校生活の3年間はどうか短かったのではないかと思います。次

のステージに進むための準備は万全ですか。もう少しやっておけばよかったと思っていない人の中にはいるのではないのでしょうか。今からでも間に合います。夢を見つかることのできた人は、その夢に向かって突き進んで下さい。これからという人も、先は長いですが、じっくり、落ちて遠回りになったとしても得られるものが数多くあるのではないかと思います。

また、これから皆さんはそれぞれの道に進んでいきます。ここでできた友人、感謝の気持ちを忘れずにそれぞれの道を歩んで下さい。最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸をお祈りしております。

### 【禍福は糾える縄の如し】

四組担任  
鶴戸 怜



『禍福は糾える縄の如し』ということわざがあります。禍（不幸）と福（幸福）は一本の絡み合った縄のように交互に訪れるという意味です。私たちは、禍の中にいるときほどこの言葉を思い浮かべ、いつか訪れる福を待ちがちです。しかし、福の中にいるときに次は禍が訪れるからと足元を見つめ直そうとする人は決して多くありません。皆さんの高校生活でも、

何かうまくいっているときほど慢心し、失敗に終わった経験はなかったでしょうか。

大切なのは順調なときほど立ち止まり、自分の歩みを見直すことです。悲しくても嬉しくても一歩引いて自分を見て下さい。これからどんなことにいくにしても、目の前のことに丁寧に向き合い努力を積み重ねて下さい。そうすることで不幸と幸福が交互に訪れながらも、やがて幸福の占める割合が少しずつ増えていくかもしれません。

あなたが持つその縄が『禍福』となるのではなく『福福福』となっていくように。

### 【出会いを大切に】

五組担任  
村嶋 朱里



ご卒業おめでとうございます。皆さんと過ごしたのは一年だけでしたが、今日この日を一緒に迎えられることを大変うれしく思います。

三年間、皆さんはたくさんのかたちを乗り越えてきました。思うようにいかず悩んだ日、友達とうまくいなくて落ち込んだ日。それでも毎日登校し、授業を受け、行事や部活にも参加し、「自分の居場所」をつくってきた姿を見ました。

私はというところ、この一年間で「人との出会いの大切さ」を実感しました。もし私がいつもど

おりのことをしていたら、皆さんに出会ってなかったかもしれない。それでもこうして同じ時間を過ごせたことは、きつと意味のある縁だったのだと思います。

皆さんは、特別なことをしてきたわけではなく、思っているかもしれないが、毎日の学校生活をきちんと過ごしてきたことと自分が立派な努力だと思っています。当たり前のようで、実はとても難しいことなのです。

これから先、迷ったり不安になったりする日もあると思います。そんなときは、この三年間で積み重ねてきた時間を思い出して下さい。そして、人との出会いを大切に、こたわりも忘れずに進んでいきましよう。皆さんは、ちゃんと前に進める力を持っています。

### 【刹那】

六組担任  
河 優太郎



一切皆苦（いっさいかいく）。これは、仏教の基本的な教えで、この世のすべては自分の思い通りにならない、という真理を説いたものです。字面だけを見ると「苦」「苦しみ」と考えてしまいがちですが、その本質は、「何かに執着してしまう人の心」にあります。

皆さんは、将来の自分を想像して進路を選択したことでしょう。しかし、十年後、二十年后に、今思い描いている理想の

自分になっている人はおそろしく一人もいません。これまでの人生を振り返ってみても、思い通りにならないことの方が多かったはず。そして、これから先の人生では、今まで以上にうまくいかない出来事が待っています。

私自身も、日々の生活の中で、思うようにいかないことに直面しています。反省することも少なくありません。それでも、それを悪いことだとは思いません。思い通りにいかない変化の中にこそ、新しい出会いや発見があるからです。

その中で私が大切にしているのが、「刹那（せつな）を生きる」という考えです。これは「今が楽しければそれでいい」という意味ではありません。私たちの命は、この一瞬一瞬、つまり「刹那」の積み重ねです。

終わってしまったことをいつまでも引きずる必要はありませんし、先のことばかりを考えて立ち止まる必要もありません。大事なことは、今の瞬間、自分にできることを精一杯やることです。

これから先、うまくいかない時、迷う時、不安になる時は、必ず訪れます。そのたびに過去や未来に心を奪われるのではなく、「今、この瞬間に自分はどうか生きているか」を考えてみてください。

皆さんがそれぞれの場所で、思い通りにならない現実と向き合いながらも、自分の刹那を大切に生きていくことを、心から願っています。いつでも遊びに来てね。

## 「進路先での新たな生活」

七組担任

山本 大介



卒業生のみなさま、並びに保護者のみなさま、ご卒業おめでとうございます。卒業生のみなさんは、卒業後に大学や専門学校への入学が決まっている方や、就職先が決まっている方の中には、まだ悩んでいる方もいると思います。しかし、四月からは、全員が本校から卒業し、新しい生活が始まります。みなさんは納得できた進路先を見つけたことができたでしょうか。中には、第一志望の進路先ではない方もいると思います。私がこの文章で伝えたいことは、進路先での生活が良いものになるかどうかは、自分の行動次第であるということです。私は、進学も就職も第一志望の進路先に決まった経験がありません。私は高校受験、大学受験ともに第一志望は不合格でした。さらに、就職活動も第一志望の結果は不採用でした。第二志望の進路先で、私は友人や同僚、先輩や上司、後輩や部下に恵まれた「ここ」に来てよかったです。」と思う経験ができました。みなさんは卒業後、進学先でも就職先でも乗り越えなければならぬ困難や課題に必ずぶつかります。卒業生のみなさん、進路先での生活を上手く送るためのコツは、進路先で頼ることができる人を見つけることです。人はひとり生きていくことはできません。強

がらずに、自分が悩んだときに一緒に乗り越えてくれる人を探してください。みなさんの未来が明るいものになりますように、心から願っています。

## 「応援される人・愛される人に」

八組担任

上森 由貴



卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんとともに過ごした時間はわずか一年でしたが、行事や授業、そしてホームルームを通して、たくさん楽しい思い出を作ることができました。本当にありがとうございます。

さて、春からそれぞれの道へ進むみなさんに、ひとつ大切にしてほしいことがあります。それは、タイトルの言葉にもあるように、「応援される人、愛される人」になってほしいということです。そのための大切なのは、日頃の行動の一つひとつです。あいさつやマナーを守ること、困っている人を助けること、失敗したときには素直に謝ること、そして何事にも一生懸命取り組むこと。こうした一つひとつの積み重ねが、周囲から応援される人になり、それぞれの環境で花を咲かせ、活躍できる力になるのだと思います。最後に、自分で選んだ道を信じ、努力することを忘れず、元気に明るく前に進んでください。みなさんのこれからを、心から応援しています。

## 「先生って呼んでくれてありがとう」

九組担任

江畑 昌範



3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私は金光蔭高校に教員として就職し、皆さんと同じ3年が経ちました。一緒に金光蔭に入ってきて一緒に辛い思いをし、嬉しい思いをし、成長できたと思います。私が辛い思いをしたとき、隣で落ち込んでいる生徒、クラブでミスして悔しがっている選手がいました。私が嬉しい思いをしたとき、隣で試験の点数が上がって喜んでる生徒、試合に勝って喜んでる選手がいました。私が本気で教員を辞めようと思ったとき、隣に「江畑先生」と呼んでくれる生徒がいました。私の喜怒哀楽のそばに必ずいるのは生徒でした。そのときに思ったことは、私は生徒を生徒に囲まれていたいということです。君たちのおかげで、私は先生を続けようと思うようになり、君たちのおかげで今もこうして先生として生きていけています。常に不甲斐ない姿を広い心で見守ってくれた3年生、常に劣等感を感じていた私の背中を押してくれた3年生へ、「おめでとう」の言葉と同時に「ありがとう」を伝えさせてください。本当にありがとうございます。これから更なる飛躍を期待しています。

## 「旅」

十組担任

保井 隼人



保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。保護者の皆様のご理解、ご協力のおかげでこの日を無事に迎えることができました。深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さん卒業おめでとうございます。教室で交わした何気ない会話、行事での一体感、そのすべてが、もう二度と同じ形では戻ってこない「私たちだけの宝物」です。心からありがとう。

自分なりの答えを探す旅は、ここから本番。これから先の安心できる道と挑戦の道が目の前に現れることがあるでしょう。どちらを選んでも間違いはありませんが、挑戦の道で得た経験は、必ず皆さんの力になります。失敗は遠回りではなく、旅を面白くする大切な一場面に過ぎません。皆さん一人ひとりの未来が、ワクワクする展開に満ちたものになることを願っています。

## 「幸せな人生を」

一・二組副担任・進路部長

和田 実穂子



胸がいつぱいになって涙が滲んでくるような静かな幸せもあるし、人目を気にせず道で踊りだしたくなる爆発的な幸せもある。後になって「ああ、あの時幸せだったんだな」って気づく幸せもあるよね。

これは、谷川俊太郎さんの『幸せについて』の一節です。この高校生活の中で、きつとあの時幸せだったんだと思う場面があるはず。もし今なくても、これからの人生の中で、そう思う時が来るでしょう。食堂に走ってお弁当を買いに行ったり、疲れきった香芝からの帰り道、テス前に残った勉強しながらおやつを食べて放課後・・・そんな何気ないありふれた日常を積み重ねれば、「幸せな人生」になるのではないかと、そう思います。そうはいっても、悲しいことや辛いことがないことはないでしょう。それでも悲しいことや辛いことがあっても、それは辛いこと、辛くないこと、辛いことではないのです。未来を決めるのは「今」なのだ。最後の国語の授業『未来のありか』にもありましたが、いろいろなことにあまり一喜一憂せず、どんと構えて「今」でできることに誠実に取り組む、そして「今」を楽しむ。そんな生き方を私もしたいと思っています。

かわいいたたたちの幸せを心から願っています。

## 「倍倍ファイト」

三・四・五組副担任

酒井 克典



保護者の皆様、ご子息ご令嬢のご卒業、誠にありがとうございます。本日、無事にこの日を迎えられ、保護者様のお喜びもひとしおかと存じます。また、本日まで誰よりも近くでお子様を見守っていたいただき、どんな時も支え続けていただき、ありがとうございましたこと、心より感謝申し上げます。

生徒の皆さん、卒業おめでとうございます。今、優しい春の日差しと穏やかな気候に包まれている、ほっとした気持ちに浸っていることでしょうか。勉強に動かし、友人との絆を深め、日々情熱を注いだ文芸活動やアスリートスポーツ。楽しい日も辛い日も、いつも誰かの笑顔に励まされたことでしょうか。でも、今日が最後の制服、最後の学び舎です。寂しいけれど、さようなら。また新たな一歩を踏み出し、様々な輝きを見せてください。

最後に、「何かを犠牲にする」ということは、「何かを目指す」ということです。「何かを本気で信じる」ということです。「最高に盛り上がりましたね、藤蔭祭。とても楽しかったです。犠牲は、言い過ぎかもしれませんが、何か本気で好きになったら、自身を信じて邁進し続けてください。これから始まる前途洋々たる皆さんの門出を祝して、もう一言。素敵な人生になりますように。バイバイファイト。

『卒業おめでとう』  
六・七組副担任・進学就職主任  
植田 崇行



皆さん、卒業おめでとうございます。三年生の一年間だけのお付き合いでしたが、たくさんのお思い出ができました。ありがとうございます。

これから先はそれぞれに違う世界が広がっていますが、どこに行っても悩んだり、つまずいたりすることも出てくると思います。ただ、悩んでいる時は、往々にして先の事ばかり考えて目の前のことを怠りがちです。だけど、例えば試合に勝てるか心配するのなら、練習しろやって話ですよ。合格できるか心配するのなら勉強しろやって話です。今日の前のやるべきことをしっかりとやる、これを忘れないければ、いつの間にか周りから「板に付いてきたね」と言われるはずですよ。

皆さんが新しい場所で、一歩ずつしっかりと進んでいく姿を、これからも見守っています。頑張ってください。

『ありがとう さよなら』  
八・九・十組副担任  
大富 定靖



卒業おめでとう。英語の試験には必ず「( )の中に入る英語・日本語を答えなさい。」という問題が出題されていました。教科書やワークには必ず一つの正解がありました。しかし、明日から君たちが踏み出す世界には、決まった正解はありません。どんな言葉を選び、どんな色を塗り、どんな(空欄)を埋めていくかは、すべて君たちの自由です。時には、自分の書いた答えが間違っていて、消しゴムで消したくなる時もあるでしょう。しかし、その消し跡こそが、君たちが一生懸命に生きて、悩んだ証拠なのです。その跡があるからこそ、次に書く言葉はもっと強く、優しくなります。君たちの未来という「真っ白なページ」が、喜びと驚きで埋め尽くされることを、応援しています。

いつかどこかで私を見かけたときは、その時の自分を自慢してください。期限はありません。See you again!

卒業生へ  
お祝いの言葉

『思い出』

P.T.A会長  
塚本 由香



3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

どんな3年間でしたか？楽しいこと、嬉しいこと、もちろん辛いことや苦しいこともたくさんあったらどう思います。皆さんの経験もされたことだと思えます。

迫力ある体育大会。今も皆さんの声援が聞こえてきます。楽しい美味しい藤蔭祭。演技にダンスに歌、教室を全面使った催し物。いい匂いを漂わせお腹を満たしてくれた食べ物の数々。どれも本当に素晴らしかったです。

試行錯誤しながら創り出した物や協力し合って出来上がった物。それを支えて下さった先生方の姿も。どれも本当に素敵な思い出ですね。この思い出はみなさんのこれからの人生の糧になると思います。皆さん

『心のコップを大切に』

同窓会会長  
西口 まゆみ



草花が屋のおとずれを待ちわびている今日の良き日に、卒業を迎えられました皆さん、ご卒業おめでとうございます。

高校三年間は、有意義な学校生活、たくさんの方の行事、思い出がいっぱいあったことと思います。高校時代は、人生の土台を作り、根を張る時といわれています。成長することのきっかけは人との出会い、師との出会い、出会いを生かすか生かさな

いかは、自分自身の心にあります。私達は、心にコップを持っています。「心のコップ」が向上きか、下向きかは、この2種類の特徴的な差にあり、結果に対しての考え方に表れます。向上きは、「自責の念」をもつこと。下向きは、「他責の念」をもつこととです。「心のコップ」は、このようなその人の考え方、感じ方という生き方全般に影響を与えるものです。

これから先の人生の中で、幾多の困難に出会おうとも、あなたがこの世でまさに唯一無二の存在である所以、すなわちあなたの「心」をどうぞ見失うことなく、大切にしたいと願っています。

卒業される皆さん、同窓会にも皆さんの絶大な協力をお願いいたします。

編集後記

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、お子様の新たな門出に、お祝い申し上げます。また、この卒業記念号を作成するにあたり、多くの皆様にご協力をいただきました。この場をおかりして、お礼申し上げます。

卒業生の皆さんは、これから先、予測不能な世界に飛び込んでいくこととなりますが、本校を卒業された皆さんなら大丈夫だと信じています。本校での学びと出会いが、皆さんのこれからの人生の礎となることを願っております。それぞれの新たな場所で活躍されることを、教職員一同応援しております。

